

博士人材キャリアパスに関するヒアリング

ハイラブル株式会社

代表取締役 水本武志 博士(情報学)

ハイラブルでやっていること 話し合いの見える化

アクティブ・ラーニングの普及で
授業中の**話し合い活動**は増えているが
個別の学習者の発言を聞くことは不可能
記録に残すことも困難



埼玉県戸田市戸田第二小学校

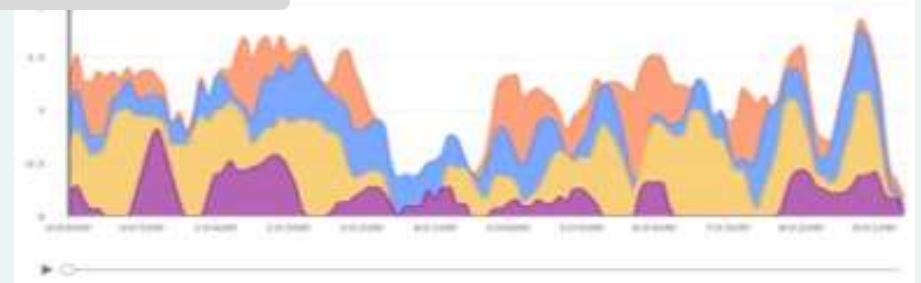
課題

- 生徒の活躍が発見されるかは運次第
- エビデンスに基づく振り返り/指導が困難
- 学習データが蓄積できない

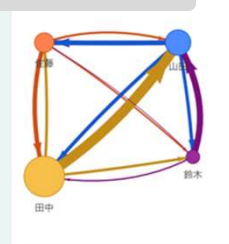
解決策

- 学習者の発話を定量化・可視化
- 学習者自身の振り返りで**メタ認知促進**
- データの蓄積で**学習分析**が可能
(LTI と xAPI で LMS/LRSと連携)

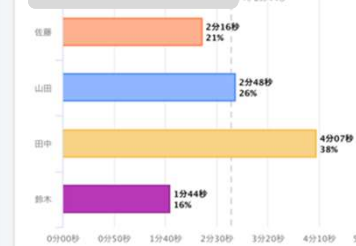
発話量の時間変化



ターンテイク



発話量



行動の傾向



ハイラブルとは

音環境分析でコミュニケーションを豊かにする

■ あらゆるコミュニケーションに広がる

- 学校教育だけでなく、企業の研修や会議体の分析にも提供
- 対面とオンラインの話し合いのどちらにも対応



対面の話し合い見える化サービス
Hylable Discussion



Web会議の見える化サービス
Hylable

テレワーク・オンライン授業の
拡大にあわせて新開発

- 生物のコミュニケーションの分析にも進出 **Project Dolittle**
(リバネス社、フォーカスシステムズ社と共同で開始)

■ 実績

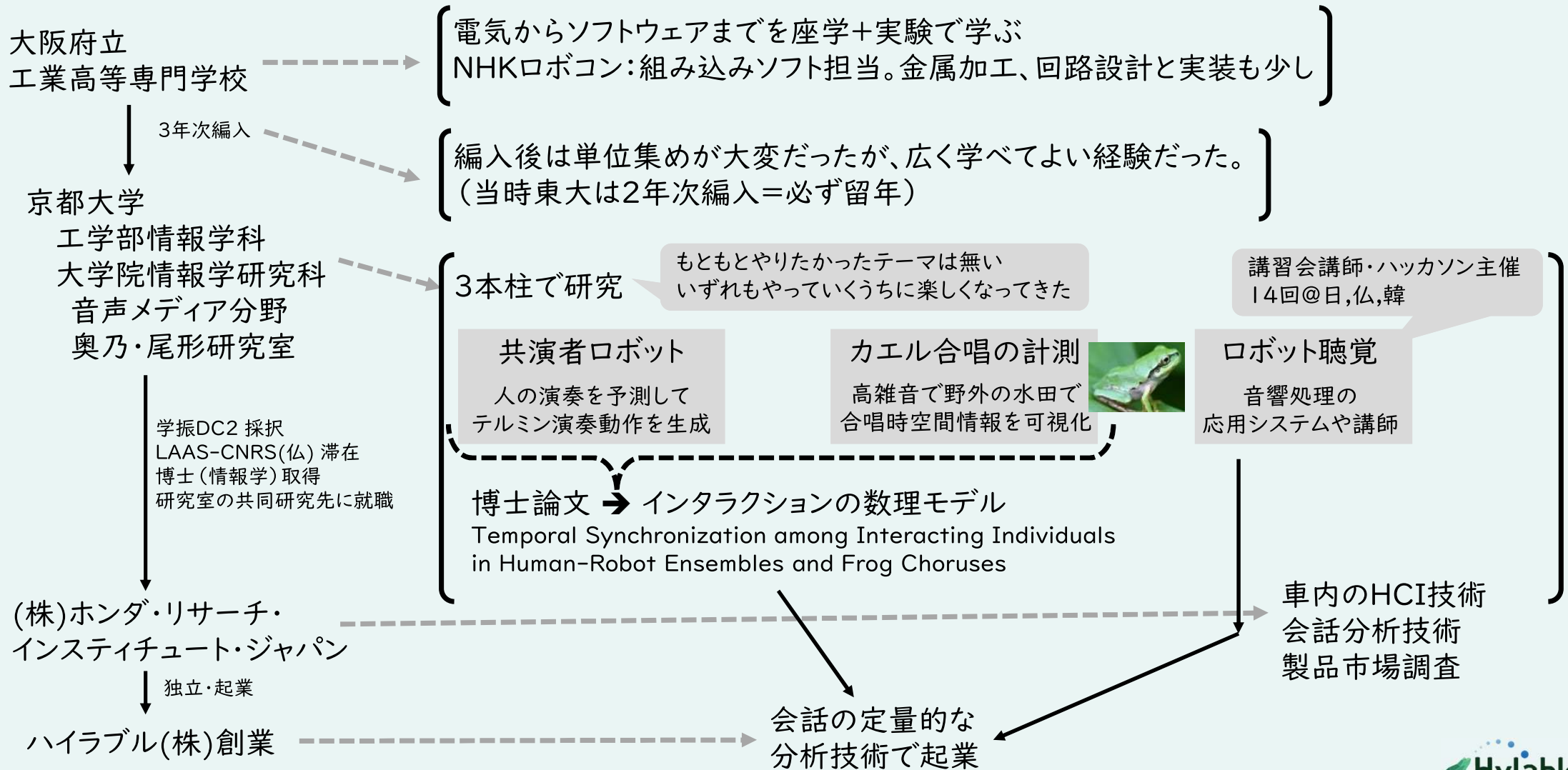
- これまでに4万人以上を分析
- 第17回日本e-Learning大賞「厚生労働大臣賞」
- リアルテックベンチャー・オブ・ザ・イヤー 2019（スタートアップ部門）
- Microsoft for Startups 採択



Microsoft
for Startups



これまでのキャリアパスと研究の現在のビジネスへの活用



民間就職や起業のきっかけ、困難に感じた点

■ きっかけ

- 論文・学会発表より直接世の中と関わりたい
 - それなり論文は書いたが関わっている感は(当時は)なかった
 - 民間企業の研究所に就職したが、やはり遠い
- 博士を取って普通のルールから外れたので、普通の会社員じゃないことがしたい
- 博士課程で個人業績を貯めて、知り合いも増えた
→ 失敗してもなんとかなる気がする

博士修了後～数年

論文誌 主著 3・共著10

国際会議 主著 6・共著18

解説章分担 主著 3・共著 3

査読なし 主著15・共著25

特許 12

受賞

IROS 2010 NTF Award

IROS 2008 NTF Award Finalist等

■ 困難に感じた点

- かなり環境に恵まれていたので、通常のスタートアップの大変さ(日々の資金繰り・営業先開拓など)以外はあまりなかった
 - 研究環境、海外発表の機会、企業や研究所のインターンシップの機会が豊富
 - 研究室のメンバーが超優秀
 - 共同研究していた企業に就職、起業に関する理解とサポート

博士課程で得たスキルがビジネスで役立った場面

■ストーリーを生み出すスキル

- 「実験したらできました」では弱い
なぜその条件なのかの論理が必要
- テルミンとカエルの研究を1本にまとめる
- プレゼン、開発ロードマップの作成

■論理展開スキル

- 研究室メンバーや審査委員の質問にその場でdefenseする必要
- 原理に戻って説明できる必要
- ピッチのQ&A、営業トーク

■正解を考えるスキル

教え「ひとと同じことをするな」

- 「そもそも何ができればいいか」を考えてその論理を編みだす
- 独自製品の開発アイデア

■新しいことを学んで使うスキル

- 新しい分野を学んで使うのは日常茶飯事
- 会計・労務・新技術などを学んで実践

■関連研究を体系立てるスキル

- 自分の研究に合わせて周辺分野の研究を体系立てる必要がある
- 競合調査と本質的な課題の発見

■分野外の人に説明するスキル

- 生物と工学では言葉も常識も全く違う
その分野に合わせた表現、論理構成
- プレゼン営業トーク

■文章作成スキル

Publish or Perish

- 相手にあわせて論文・査読・解説・報告・申請書などを量産する必要がある
- 補助金、提案書、ウェブなどどこでも

■事務処理スキル

自分で研究費をとることが推奨

- 経費、旅行伺、研究費申請、発表申請…
- 人事・労務・補助金などどこでも

(+ 博士があると、専門家だと説明しなくていい)

